

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研01】 9月2日(水) 16:35-18:35	ここまできた数値シミュレーション技術 - 現状と課題 - 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html	座長 榎山和男 中央大学 話題提供者 前田健一 名古屋工業大学 市村 強 東京工業大学 野田利弘 名古屋大学 中村 光 名古屋大学 牛島 省 京都大学 寺田賢二郎 東北大学
-2会場 AB02	応用力学を基調とした計算力学は、この半世紀の間、土木構造物の設計・解析に不可欠な様々な数値シミュレーションツールを提供することで、安全で快適な社会基盤の構築に貢献してきた。現在では、計算機支援工学(CAE)としてほとんどすべての生産活動を支えるまでに汎用化した数値シミュレーション技術であるが、地盤・コンクリート・鋼などの土木材料分野、あるいは環境・防災・維持管理などの個々の分野において、その理論的および技術的発展はどこまで進んでいるのか、あるいはどのような解析が可能となっているのかなどの視点から現状を把握し、残されている課題ならびに今後10年の方向性を討論する。	
【研02】 9月2日(水) 16:35-18:35	土木・工学分野における初等教育支援のあり方について 教育企画・人材育成委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/education/index.shtml	座長 末武義崇 足利工業大学 話題提供者 松村暢彦 大阪大学 永江大介 大牟田市立銀水小学校 教頭 椎志敏広 筑後市立古島小学校 教諭 濱砂圭子 NPO法人男女・子育て環境改善研究所 理事長 川口道子 NPO法人 はかたの夢松原の会 理事長
-3会場 A101	初等・中等教育の現場では、児童・生徒の理科離れ・工学離れが深刻化してきている。一方、初等教育では、「数理教育」の視点はあるが「工学教育」の視点がないという構造的な問題も指摘されている。当小委員会では小学校における「総合的な学習の時間」および「理科」、「社会」などの教科教育を通じ、土木技術や土木事業に関する出前授業等を実施して、児童の理科離れに歯止めをかけるべく活動を行ってきた。土木のみならず工学としての取組みを促進するための効果的な手法、並びに活動支援について、組織的な仕組みづくりやネットワークの構築など、土木学会として検討すべき課題も多いと考えられる。こうした状況を踏まえ、土木学会の初等教育支援活動のあり方について、学識経験者及び企業・自治体関係者等を招いてパネルディスカッションを行う。	
【研03】 9月2日(水) 16:35-18:35	地球温暖化対策 土木学会はいかに行動すべきか 地球環境委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/global/index.htm	座長 太田幸雄 北海道大学 話題提供者
-4会場 A201	地球温暖化問題は全人類が緊急に対応せねばならない課題である。今春、昨年度の時限付き委員会である土木学会地球温暖化対策特別委員会より、土木界、そして土木学会としての地球温暖化問題に対する活動指針が提示された。これにより、土木学会としてはより具体的な活動計画の策定とその実施が求められている。本研究討論会では土木学会の各分野において、今後、緩和策、適応策のためにいかに行動していくべきかについて具体的な例を挙げながら議論するとともに、土木学会全体として統一的な行動を起こし、土木学会内外へのアピールと貢献を行うための具体的方策について検討する。	
【研04】 9月2日(水) 16:35-18:35	歴史的構造物の保全 土木史研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm	座長 五十畑弘 日本大学 話題提供者 植野芳彦 (株)長大 笠 博義 (株)間組 樋口輝久 岡山大学 久田 真 東北大学 三村 衛 京都大学
-5会場 A202	老朽インフラストックの比率の高まりの中で、歴史的価値をもつ構造物の保全について、どのようなスタンスで取り組むべきか、その方向性について実務的な側面を含んで討論を行う。以下の共通事項を基本としつつ、土木の主要な分野全体を対象とする。土木各分野における保全の課題、特徴など(事例を通じて) 設計、施工を中心とした共通点と相違点 共通点から見た土木遺産全体の保全の方向性 今後の技術的課題	
【研05】 9月2日(水) 16:35-18:35	九州発、防災・減災を実現する情報技術の現状と将来 情報利用技術委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/	座長 小林一郎 熊本大学 話題提供者 藤岡 晃 (株)フジタ 山田 文彦 熊本大学 森山 聡之 崇城大学 野間 卓志 熊本県 鈴木 弘人 ヤマハ発動機(株)
-6会場 A203	我が国は、地形・地質、気象等の国土・自然条件から地震・台風・集中豪雨等による自然災害に対して脆弱な国土となっており、防災・減災対策の重要性が叫ばれている。しかしながら、土砂災害や浸水被害といった災害の種類や規模、さらに都市と農村、山間部や沿岸部といった地域特性により必要とされる防災・減災対策は多岐にわたり、ハード的な対策のみで災害を防ぐことは容易ではない。その一方で近年、災害発生の予測や避難シミュレーション、あるいは災害情報の伝達など、情報技術を活用したソフト的な対策に関する研究が活発に行われてきている。ここでは、防災・減災の実現に役立つ情報技術の最新動向ならびに九州における先進事例を紹介するとともに、情報技術・情報インフラの活用で今後の災害対策はどう変わるのか、またそのために準備すべきことは何かについて議論する。	
【研06】 9月2日(水) 16:35-18:35	土木工学からみた放射性廃棄物処分の10年と今後の展望について エネルギー委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/enedobo/energydoboku.html	座長 大西有三 京都大学 話題提供者 出光一哉 九州大学 梅木博之 日本原子力研究開発機構 河西 基 (財)電力中央研究所 京谷 修 日本原燃(株) 土 宏之 原子力発電環境整備機構
-7会場 A401	土木学会における放射性廃棄物処分に関する共通セッション及び研究討論会は、開催して10年という節目を迎えた。エネルギー委員会では、低レベル放射性廃棄物の余裕深度処分のうち土木工学に関係の深い事項を中心に様々な検討を行ってきた。一方、高レベル放射性廃棄物処分に関しては、JAEAが継続して研究開発に取組み、NUMOはこれら国内外の最新成果および自らの技術開発成果を基に地層処分安全な実施について2010年技術レポート(仮称)にまとめる予定である。本研究討論会においては、放射性廃棄物処分のこれまでの10年間の様々な視点から顧み、今後の土木技術者が果たすべき役割、要望等について議論する。	
【研07】 9月2日(水) 16:35-18:35	これからの技術者には何が必要ですか? 継続教育実施委員会	座長 依田照彦 早稲田大学 話題提供者 アラン・バーデン 英国土木学会 永田一良 (社)日本技術士会 佐々木寿朗 日本工営(株) 諏訪博巳 前田建設工業(株) 片山功三 土木学会 技術推進機構
-8会場 A402	技術者にとって、資格と継続教育(CPD)は車の両輪である。どちらか一方が欠けても技術力の説明責任は果たせない。真に技術力のある技術者になるためには、資格を持ち、その資格を担保する能力を維持し続ける必要がある。土木学会では、継続教育制度を2001年4月に発足させ、土木技術者が倫理観と専門的能力を持って社会に貢献できるように、その能力の維持・向上を支援している。近年、我が国においても建設分野でCPD記録が管理・監理技術者としての要件の一つとされる例が増えている。このような現状を背景に、継続教育と技術者資格のあるべき姿や土木学会が果たすべき役割を討論することを目的としている。	

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研08】 9月2日(水) 16:35-18:35 -9会場 A403	地下空間における既設建造物のアセットマネジメントの現状と課題 地下空間研究委員会 http://www.jsce-ours.org/	座長 亀村勝美 (財)深田地質研究所 話題提供者 葛城 真治 東京電力(株) 河畑 充弘 東京地下鉄(株) 伊東 昇 首都高速道路(株) 加藤 典子 国土交通省中部地方整備局 細川 顕仁 日本下水道事業団 馬場 一孝 長崎県
	地下空間を利用した社会資本は、山岳トンネルはもとより都市部においても長い歴史の中で整備が進められ、我々の生活には必要不可欠なものとなっている。しかし社会を取り巻く環境が急激に変化し、新しく「物」を造ることが困難な時代に突入しており、これまで整備されてきた社会資本をいかに合理的に維持管理するかが求められ、それに対して多くの事業者がアセットマネジメントの観点から様々な取り組みを開始している。本研究討論会では地下空間を利用する事業者が、自らの社会資本の維持管理をどのように考え、進めているかの事例を紹介し、その後これからの社会資本の整備のあり方、アセットマネジメントの考え方について意見交換を行う。	
【研09】 9月2日(水) 16:35-18:35 -1会場 1011	土木学会としてのこれからの国際活動支援のあり方 岩盤力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/rm/index.asp	座長 清水則一 山口大学 話題提供者 黒柳俊之 国際協力機構 経済基盤開発部 相河清実 鹿島建設(株) 岩野 政浩 大成建設 迫田至誠 日本工営(株)
	発展途上国を中心に海外での旺盛なインフラ整備事業が進む中、国際建設プロジェクトで活躍する日本の技術者は様々な課題に直面している。そのような技術者に対し、学会としてどのような支援が可能かについて、岩盤力学委員会では「岩盤工学による国際活動支援研究小委員会(西脇芳文委員長)」において過去2年間検討を進めてきた。支援が望まれる内容は岩盤工学の範囲に収まらず、また、技術面だけでなく、政策や人材育成に関することなど広範囲に及ぶものとなる。本討論会は小委員会で作案した、海外土木建設事業に対する国際活動支援アクションプランを踏まえつつ、今後、学会としてより広い分野で、日本の土木技術者を支援するための仕組みのあり方や具体的な策について討論する。	
【研10】 9月2日(水) 16:35-18:35 -5会場 1021	土木構造物標準示方書(共通編、作用・荷重編)の策定に向けて 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	座長 鈴木基行 東北大学 話題提供者 石橋忠良 JR東日本 本間淳史 NEXCO東日本 幸左賢二 九州工業大学 高橋良和 京都大学 佐藤尚次 中央大学 玉越隆史 国土交通省国土技術政策総合研究所 渡辺泰充 清水建設(株) 松浦康博 八千代エンジニアリング(株)
	本研究討論会は、構造工学委員会で2006年9月より活動を開始し、2010年春の出版を目指している「土木構造物標準示方書(共通編、作用・荷重編)」について、その内容の骨子を学会員に広く周知し、さらに会員から広く意見を聴取することを目的とする。共通編の討論の話題としては、他の規程書・示方書などにおいてほとんど記述されていない、(1)契約における責任技術者の配置、(2)構造計画のあり方について、とし、作用・荷重編については、(3)性能設計における作用・荷重条件の扱いにも触れる。これらはいずれも良い土木構造物を構築するために必要と考えられる項目である。(1)については、契約上、発注者側および請負者側それぞれに能力と経験を有する技術者を配置するとともに、その責任技術者の責任と権限を契約上明確にする必要性を示す。なお、これにより土木技術者の社会的地位の向上も図りたいとの期待もある。また契約については、FIDIC等に見られる3者関係を取上げ、設計照査者や技術監理者の必要性について議論する。また、良い土木構造物の構築には、設計・施工に先立ち適切な構造計画を立てることや、要求性能、設計状況に応じた作用・荷重条件を想定することが極めて重要であり、その際考慮すべき事項について広く議論する。	
【研11】 9月2日(水) 16:35-18:35 -1会場 1031	市民合意形成プロデューサーの役割と認定のあり方 コンサルタント委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/index.asp	座長 上野俊司 国際航業(株) 話題提供者 大曾根正一 サンコーコンサルタント(株) 酒本 宏 (株)キタバ 山中英生 徳島大学 小川剛志 千葉県 伊藤将司 (株)福山コンサルタント
	本委員会では、平成12年より、市民合意形成の円滑化と合意形成プロデューサー(技術者)の職能の確立を目的として研究活動を続け、昨年度、土木学会平成20年度重点研究課題の活動として、海外事例調査、全国3箇所での市民合意形成シンポジウム、まちづくりにおける住民合意形成研修会(千葉県)を開催し、合意形成プロデューサー(技術者)の認定制度の議論を深めてきた。本研究討論会において、これらの研究成果を話題提供として紹介し、学識、行政、コンサルタントの立場から、合意形成プロデューサーの役割と認定のあり方について、課題と可能性を議論し、今後のあるべき姿を探ってみたい。	
【研12】 9月3日(木) 13:00-15:00 -1会場 AB01	先輩に聞く - 環境工学の将来 環境工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/eec/index.html	座長 藤井滋穂 京都大学 話題提供者 藤田正憲 高知工業高等専門学校 楠田哲也 北九州市立大学
	環境工学は幅広い分野から成り立っており、著名な研究者の方々はそれぞれが独自の工夫と努力によって最先端を極められ、若い研究者には学ぶべき点が多々ある。本企画では、長年にわたって第一線で研究を続けてこられた著名な先生をお招きし、環境工学分野での研究に対する取り組み、考え方、将来への展望、若い研究者に望むこと等を話して頂く。また、講演後、会場の参加者と「環境工学分野の将来像」について意見交換を行う。	
【研13】 9月3日(木) 13:00-15:00 -2会場 AB02	土木技術映像作品の技術教育における効果 土木技術映像委員会 http://mme.kitera.ne.jp/	座長 大野春雄 攻玉社工短期大学 話題提供者 高橋広行 東京都立総合工科高校 堀川洋子 日本大学 榊山清人 (財)全国建設研修センター 福原輝幸 福井大学
	土木関連の映像作品は、河川、道路、橋梁、ダム、トンネル等の分野と、土木技術者、土木系学生、小・中学生、一般社会人の対象者によって分類することができ、工事記録・技術紹介など専門性の高いものから、土木一般・啓発など一般的な内容のものまで多様な価値を有している。土木技術映像委員会では、映像作品の調査・収集、データベース化、普及・活用、一般公開といった活動を進めてきている。今回は前回に引き続き、これらの活動の中から映像作品の利・活用に着目し、具体的な分野を取り上げ、どの対象者に教材としての効果があげられるかなどについて、パネリストから発表していただき意見交換を行う。	
【研14】 9月3日(木) 13:00-15:00 -3会場 A101	地盤工学分野の研究マップ(リサーチマップ) 地盤工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/jiban/	座長 飯塚 敦 神戸大学 話題提供者 岡村未対 愛媛大学 勝見 武 京都大学 後藤 聡 山梨大学 澤田 亮 (財)鉄道総合技術研究所 塚本良道 東京理科大学 利藤房男 応用地質(株)
	今後の地盤工学に関する研究テーマなど、研究開発に携わる者が研究開発計画の策定を行う際の指標となるようなリサーチマップについて討論する。研究分野ごとに、20年先の社会・技術動向、他分野との協調・融合、を考慮し、将来を見据えた研究項目をロードマップとして、研究の目標、研究スパン、必要な研究テーマについてまとめる。	

日時/会場	題 目	座長および話題提供者
【研15】 9月3日(木) 13:00-15:00 -4会場 A201	日本のインフラ事業におけるPFI/PPPの再考 建設マネジメント委員会、土木計画学研究会 http://www.jsce.or.jp/committee/cmc/index.asp http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtm	座長 宮本利明 東京都市大学 話題提供者 岡本博 国土交通省九州地方整備局 北詰恵一 関西大学 橋本武寛 J-Infra. 前マッコリージャパン 美原融 (株)三井物産戦略研究所 渡会英明 (株)建設技術研究所
【研16】 9月3日(木) 13:00-15:00 -5会場 A202	水理・水文解析ソフトウェア統合型共通基盤の活用と総合的な水解析ソフトウェアへの進化に向けて 水工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/hydr.html	座長 山田 正 中央大学 話題提供者 中川 一 京都大学 防災研究所 椎葉 充晴 京都大学 工学研究科 大平一典 国土交通省 国土技術政策総合研究所 五道仁実 国土交通省 河川局情報対策室 未定 国土交通省都市地域・整備局下水道部
【研17】 9月3日(木) 13:00-15:00 -6会場 A203	風景立国九州に向けた土木デザインの仕組みづくり 景観・デザイン委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/lsd/index.html	座長 小林一郎 熊本大学 話題提供者 川口芳人 国土交通省九州地方整備局 竹下真治 国土交通省九州地方整備局 矢ヶ部輝明 (社)建設コンサルタンツ協会九州支部 星野裕司 熊本大学
【研18】 9月3日(木) 13:00-15:00 -7会場 A401	実務者から見たコンクリート標準示方書 コンクリート委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html	座長 宮川豊章 京都大学 話題提供者 石橋忠良 JR東日本 森北佳昭 国土交通省九州地方整備局 十河茂幸 (株)大林組 渡辺泰充 清水建設(株) 宇治公隆 首都大学東京 下村 匠 長岡技術科学大学
【研19】 9月3日(木) 13:00-15:00 -8会場 A402	市民防災教育への貢献を考える 地震工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/eec2/index.html	座長 小川雄二郎 富士常葉大学 話題提供者 三上 卓 群馬工業高等専門学校 成富 勝 九州共立大学 原田紹臣 三井共同建設コンサルタント(株) 中野 晋 徳島大学 関口宏二 (独)防災科学技術研究所 須川哲治 (財)道路管理センター九州地区 坂本 秀和 福岡市市民局
【研20】 9月3日(木) 13:00-15:00 -9会場 A403	設計の無駄と余裕 - 新しい設計法への取り組み - 鋼構造委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/steel/index.asp	座長 小西拓洋 首都高技術センター 話題提供者 三木千壽 東京工業大学 緒方辰夫 NEXCO総研 森 猛 法政大学 山口栄輝 九州工業大学
【研21】 9月3日(木) 13:00-15:00 -1会場 1011	複合構造化による土木構造物の延命化 複合構造委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/fukugou/index.htm	座長 横田 弘 北海道大学 話題提供者 松村政秀 大阪市立大学 小林 朗 日鉄コンボジット(株) 久利良夫 (財)阪神高速道路管理技術センター 中村一史 首都大学東京

PFIの社会的必要性に対する国際的な認識の高まりにもかかわらず、わが国ではインフラ整備を伴う案件はほとんど事業化されていない。昨今の財政状況のもと、インフラ事業への適切なPFI導入の重要性はより高まってきていると言えよう。土木学会はこの問題に積極的に取り組み社会に貢献する責務があるとの問題意識のもと、インフラPFI研究小委員会は2001年から活動をはじめ、研究討論会も過去2回開催してきている。今回は、まず研究小委員会メンバーが最近の成果を報告し、次いで外部の専門家にそれに対するコメントと一般的な提言をお願いし、最後にフロアとともに今後の進むべき方向について討論することを目的としている。

水工学分野における計算機シミュレーションソフトウェアの相互利用やグラフィカルユーザーインターフェースの開発を促進させ、わが国の水工シミュレーション技術の高度化と国際展開を図るために、水理・水文シミュレーションソフトウェアの統合型共通基盤の活用方法と総合的な水解析ソフトウェアへの進化について議論する。また、統合型共通基盤への参加やソフトウェアの品質認証、品質認証のための水理・水文データなどに関する議論を通じて、水理・水文解析ソフトウェア統合型共通基盤を確固たるものとするための役割の仕方を議論する。

美しい国づくり政策大綱後、美しい九州づくりに向けて、九州地方整備局では風景立国九州に関わる施策を展開しています。その中で土木デザインに関わる仕組みづくりとして「景観形成管理システム」を平成19年度より運用しています。「景観形成管理システム」は景観形成のプロセスを引き継ぎ資料(「景観カルテ」と呼ぶ)として整理し、個別事業における整備方針の一貫性を確保するとともに、先進的な事例に関する情報等のノウハウの蓄積を目的としています。ここでは、景観アドバイザーや整備局の担当者らと交え、仕組みづくりと運用に関わる努力とその成果を振り返り、あわせて将来に向けた課題について意見交換する。

土木学会コンクリート標準示方書は、わが国のコンクリート技術の中心に位置する技術文書体系である。コンクリート構造物の設計・施工・維持管理の実務においてだけでなく、学術研究、コンクリート工学教育、また学会にも大きな影響を及ぼしている。2007年制定のコンクリート標準示方書が世に出て1年余りが経過し、その内容が技術の現場にほぼ浸透した。現行示方書には、これまでどのような声か寄せられているのか。この討論会では、示方書を使う実務者の視点を中心として、示方書の課題を論じる。そして、示方書を取り巻く状況は今後どのように展開するのか。数年後の改訂に望まれることは何か。さらに大きな展望は、技術者・研究者がそれらを考えてゆく契機としたい。

防災は自助、共助、公助といわれています。この自助、共助の主体となる市民や地域行政に、土木学会は専門家集団として望まれる役割を果たしているのでしょうか？学官民三位一体の市民防災エキスパート研修制度の事例(静岡県) 市民参加型防災啓発教育タウンウォッチングの事例 高校生の学内防災教育の事例 中小建設業のBCP入門セミナーの実施の体験 徳島大学防災リーダー養成講座の体験 防災科研の市民向けアウトリーチ活動 北九州の自治体における防災教育の事例等をパネラーから紹介いただき土木学会関係者の果たしてきている役割を検証します。

設計の中に潜む無駄を取り上げ討論します。無駄の中には、技術的に解明できない部分や、万が一への余裕部分もありますが、根拠のない不安、検討不足などを安全代とした無駄もあります。今回はそんな無駄をテーマに討論会を開催します。実挙動をより正確に、詳細に再現できるFEMが身近な設計ツールとして利用出来るようになり、解析の難しかった部分についても研究が進んでいます。このような研究を通じて明らかとなってきた無駄と余裕について考えたいと思います。また部分荷重係数設計法が世界の趨勢となる中、鋼構造委員会では標準示方書を発刊し、部分係数設計法の普及を進めていますが、新たな設計法により、無駄と余裕はどう整理反映されるのか、討論を通して新しい設計の姿を探ります。

限りある財源の下、更新時期を迎える構造物には効率的な補修補強による延命化が求められている。鋼やコンクリート、FRPなどを用いた複合構造化による補修補強は、構造物の性能をより効率的に回復・向上できる可能性がある。複合構造委員会では、維持管理小委員会およびFRPによる鋼および複合構造の補修・補強小委員会を設置し、種々の材料を用いた複合構造化による構造物の延命化について調査・検討を実施してきた。討論会では、これらの小委員会の活動成果を題材に、構造物を複合構造化することによって土木構造物の延命化を行う場合の設計・施工・維持管理の現状と課題、ならびに今後の展望について討論する。

日時/会場	題 目	座長および話題提供者
【研22】 9月3日(木) 13:00-15:00 - 5会場 1021	ランナーのための道路舗装 舗装工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/pavement/index.html	座長 佐藤研一 福岡大学 話題提供者 岡村美好 山梨大学 竹内 康 東京農業大学 平塚 潤 城西大学 田原亮二 福岡大学 峰岸順一 東京都 長尾裕史 ミズノ(株) 西田昌弘 クリヤマ(株)
	道路舗装は、主として車の快適な交通のために整備されてきた。しかし、駅伝やマラソン競技会などでは、道路舗装がそのまま使われていることは周知のことである。一方、歩道や公園などでは、利用者の安全性や快適性を確保するための特殊舗装が施されている場合があり、これに関する研究も行われている。しかし、マラソンランナーなどの道路舗装を利用する競技者の視点から道路舗装のあり方について議論された例は殆ど無い。そこで、舗装工学委員会では、「ランナーにとって走りやすい舗装とは？」という視点から改めて道路舗装のあり方について議論することとした。	
【研23】 9月3日(木) 13:00-15:00 - 1会場 1031	土木の魅力を語ろう！ 建設技術研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/sekou/top.htm	座長 柿谷達雄 清水建設(株) 話題提供者 西山芳一 土木写真家 小島健一 写真家、見学団体「社会科見学に行こう！」主宰 須田久美子 鹿島建設株
	土木はCivil engineering(市民工学)と言われているように、本来、人々の生活を支え、豊かにする魅力あるものである。しかしながら、土木の社会的認知度は低く、近年では若者の土木離れも問題となってきた。こういった社会状況の中、「ビッグプロジェクト」、「歴史」、「環境」等をキーワードに、土木構造物の魅力、現場作業の魅力、土木と環境等、多様な視点から土木の魅力について語り、再認識するとともに、今後の展開について議論する。	